

沖縄島貴重植物生育環境データベースの構築手法の開発

(社) 沖縄建設弘済会 技術環境研究所 ○武村栄子

1. 目的

近年、沖縄の自然環境は様々な開発行為により劣化しており、生物多様性も急速に失われつつある。各種事業により自生している貴重植物が影響を受けると予測された場合には、効果的な保全検討が求められているが、沖縄の貴重植物の生育環境や移植技術に関するデータが少なく、充分な保全検討には困難な状況にあった。また、保全目標の設定や方法については個々の事業で個別に対応されており、とりまとめ方法や保存形式等についても統一されていない。そのため、これまで実施してきた保全対策の全体像を概観し活用できる資料として整備されていないのが現状である。

そこで、既往調査データ等の収集・とりまとめを行い、データベースの基本構造を検討し、沖縄島貴重植物生育環境データベース（試行版）として整備することで、保全対策の基礎資料とともに、保全にかかる研究や施策立案に役立つことを目的とする。

2. 内容及び結論

（1）調査データ等の収集

既往調査事例の収集・とりまとめ結果に基づき、保全対象種名、選定理由、保全対策方法、モニタリング結果等について整理した。

（2）データベースの構築

1) データベースの構造の検討

入力項目やグループ分けを検討し、収集した調査データを格納した。

●入力項目；事業内容・移植対象種・保全検討内容・移植方法・生育環境・生態情報・モニタリング等

2) 課題の検証

データベースを活用するにあたり、構造、収集データ等に課題がないか検討するために、課題を設定して検証をおこなった。

3. 今後の問題点

（1）データの蓄積

既往調査データの収集については当会の実施業務において得られたデータを主体として取りまとめている。本データベースを保全対策検討のツールとして活用していくためには、データ量を増やすことと、さらに今後データの質についても向上させる必要がある。

（2）公開データの選別・方法の検討

構築されたデータベースは基本的に公開することを視野に入れているが、貴重植物に関する細かな生育地等情報については、貴重植物保護の観点から慎重に取り扱うこととする。そのため、公開データの選別および方法については検討を行う必要がある。